

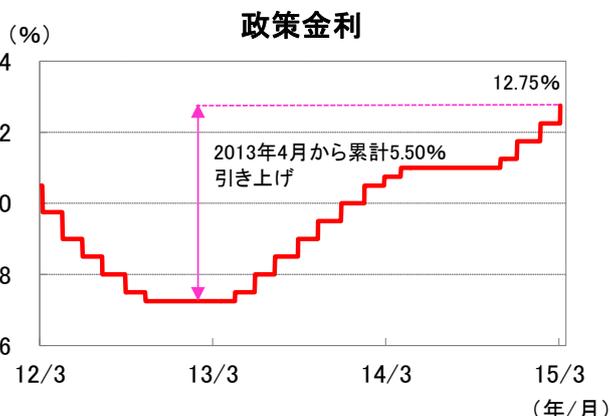
今日のトピック

ブラジル中央銀行が4会合連続の利上げ

ポイント1 0.50%の利上げ

市場予想通りの決定

- ブラジル中央銀行(以下、中銀)は4日、政策金利を0.50%引き上げ、12.75%とすることを全会一致で決定しました。
- 政策金利の引き上げは10月の会合から4会合連続で、引き上げ幅は市場の大方の予想通りの0.50%となりました。



ポイント2 物価上昇の加速に対応

足元のリアル安にも配慮

- 2015年2月前半の消費者物価指数は、前年同月比+7.36%と、1月の同+7.14%から上昇し、中銀の物価目標(年+2.5%~+6.5%)の上限を大きく上回る状況が続いています。背景には、干ばつの影響による食品の値上がりや、電力など公共料金の引き上げなどがあります。
- ブラジルレアルの軟調な推移が続いていることもあり、市場では当面物価が高止まると予想されています。物価高により景気が抑えられる懸念も考慮し、中銀は今回も利上げを続けることが適切と判断したと見られます。



(注1) 政策金利は2012年3月1日~2015年3月4日。
消費者物価指数は2012年2月~2015年2月(2015年2月は月前半)。
(注2) 消費者物価指数の市場予想は、ブラジル中央銀行が3月2日に発表した調査結果。
(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 レアル安定のため、中銀は利上げと為替介入の継続を慎重に検討へ

- 市場では、中銀が次回会合(4月28日~29日)でも利上げを続けるとの見方が大勢です。ただし、2016年末の物価上昇率の市場予想は低下(3月2日発表分は前年比+5.5%、1月5日発表分は同+6.56%)しており、中期的な物価予想には落ち着きが見られます。これまでの利上げ効果が期待され、今後の利上げペースを見極める上で、12日発表の今回会合の議事録が注目されます。
- 中銀は3月末までの予定でレアル買いの為替介入を実施していますが、景気低迷が続くなか、この政策の縮小や打ち切りの観測が出ており、足元のリアル安につながっています。
- 中銀は、物価予想の悪化を避けるため、為替介入を打ち切る場合には金融引き締め姿勢を強調するなど、両方の政策を慎重に組み合わせながら、レアルの安定を図ると思われます。

ここも
チェック!

2015年02月20日 最近の指標から見るブラジル経済(2015年2月)
2015年02月18日 「ルセフ政権」を悩ます水不足(ブラジル)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。